

【カレッジ・はなみづき】新聞

第50号 特別号 H.25.12.13

発行 【カレッジ・はなみづき】

《第五十号発行 記念特別号》

文責 田中光子



会員全員の協

力や創意工夫の賜物に他ならない。この機に第1号より第

49号まで目を通してみた。平成18年に発足来今までの足跡が2ヶ月分まとめられ、内容や感想も含め、ギッシリ紙面一杯に記されている。発会

当初より編集吉岡・発行田中コンビは現在まで休まず継続、そろそろバトンタッチの時期を迎えていているが、振り返れば様々な光景が懐かしく思い浮かぶ……。今年で8年目、毎月第2金曜日に開催し、今まで90回の多様なプログラムをこなしてきた。さらに、「沼南」にも参加したので、実際に100回の集いを実施したこと



になり、感慨もひとしおだ。

H.18年4月、柏市と沼南町合併の際、公民館主催「女性大学」を自主運営で引き継ぐ事となつた。よちよち歩きでスタートした本会は、初年度役員主導の年間プログラムを実施したが、次年度より全員参加型の自主運営スタイルに変え

ていった。発会当時考えたのは、前もってお膳立てされた内容に乗つかるだけの受け身ではなく、自らが年間計画や講座内容を組み立て運営すると

いう自覚を全員に持つてもう事だった。

2009.12 文楽座

がその一つで、勇気と労力を伴うが、会員に喜ばれ、自身の成長とやり甲斐・達成感が得られるものだ



外旅シリーズは写真映像と共に未知の世界を旅した気分になり、介護体験ではH.22年、生稻山西・武田さんが発表

貴重な参考事例となつた。

2011.12 トートバック

23年には朗読講座が提案され、柴田ト

ヨの「くじけ

23年には朗読講座が提案され、柴田トヨの「くじけ

23年には朗読講座が提案され、柴田トヨの「くじけ

23年には朗

23年には朗